

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2026年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習会場等について

競技場内での練習は指定区域で行い、競技役員の指示に従うこと。特に、投てき練習については、監督の付き添いのもと事故防止に努めること。

3. 競技場について

- (1) 競技場の競走路及び助走路は全天候舗装である。
- (2) スパイクシューズのピンの長さは、9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。これらのピンの直径は、少なくとも長さの半分が4mm四方の定規に適合し、数は11本以内とする。(TR5. 2)

4. 招集について

- (1) 招集所は100mスタート地点後方に設ける。
- (2) 招集完了時刻（移動開始時刻）は、競技開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。種目別招集完了時刻は、プログラムの競技日程欄を参照のこと。

種目	招集完了時刻
トラック競技	15分前
フィールド競技	20分前

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- (4) 招集の手順
ア 競技者又は代理人は、招集所付近の掲示板に張り出された用紙に○印をつけ、出場しない者は取り消し線を施すこと。なお、リレー競技はオーダーの提出をもってこれにあてる。
イ 競技者は、前記(2)に示した招集完了時刻までに招集所で待機し、最終確認を受けること。
ウ ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことができない。(TR6. 3)
エ 代理人による招集の最終確認は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、最初の種目の招集完了時刻前までに競技者係に申し出て出場を確認すること。なお、当該競技者でトラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後ただちにフィールド種目の競技場所に移動し、担当競技役員に申し出ること。また、フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前、当該競技役員にその旨を申し出ること。(TR4. 3 TR25. 19)
オ リレー種目について
受付時に受け取ったオーダー用紙に必要事項を記入し、各ラウンドともその種目の招集完了時刻の1時間前までに、大会本部に提出すること。

5. 競技について

- (1) 当該種目出場の競技者以外は、競技場内に立ち入ることができない。
- (2) 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (3) トラック競技では、すべて写真判定装置（全自動電気計時）を使用する。
- (4) 800m以下の距離のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは写真判定を拡大し、細部（電気計時1/1000）まで読み取り着差を判定する。
- (5) 判定が不可能な場合は、本人又は代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲で、スタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、1つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
- (6) 不正スタートについては、一度の不正スタートでその責任を有する競技者は失格とする。(TR16. 8)
- (7) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても本競技会のリレー又は他の種目に申し込んである競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り他の競技者と交代できる。(TR24. 10)
- (8) 4×400mRの第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ通過順に内側より並んで行うこと。(TR24. 20)

- (9) 競技者に対する競技場内での助力は禁止とするが、助言については競技運営及び他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認めるものとする。
- (10) トラック競技におけるTR5.2に違反するシューズでの出場は認めない。フィールド競技においてはTR5.2を適用しない。
- (11) 新型コロナウイルス感染拡大防止の対策により、マスクをトラック競技はスタート準備まで、フィールド競技は試技開始前（待機中も含む）まで着用すること。また、声援、集団応援を禁止とする。

6. アスリートビブスについて

ビブスは指定の大きさのものをユニフォームの胸部と背部につけること。（原則1枚につき、4カ所を止める）。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部又は背部のみでよい。また、トラック競技出場者は、写真判定用の腰ナンバー標識を右後方につけること。リレー競技については第4走者のみ右後方につけること。

7. 競技用具について

競技に使用する用器具は、棒高跳用ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし、やりについては当日検査の上使用を認める。検査に合格した用具については一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。なお、借り上げた用具が破損しても責任を負わない。

8. 走高跳におけるバーの上げ方

種目	練習	1	2	3	4	5
男子走高跳	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	以降3cm
女子走高跳	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	以降3cm

- (1) 走高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決定するまで上記の上げ方とする。ただし、天候その他の事情により変更することもある。
- (2) 第1位が同成績の場合及び全道大会出場権における順位決定のバーの上げ下げは、走高跳2cmとする。

9. 競技場への入退場について

全ての競技者の入退場は、当該競技役員の指示に従うこと。

10. 表彰について

表彰は行わない。3位まで入賞した選手、学校については本部2階で賞状を受け取ること。

11. その他

- (1) 大会期間中に競技場で発生した傷害や疾病の応急処置は主催者側において行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。
- (2) デイリーリザルトは、インターネット（小樽後志陸上競技協会ホームページ）上で確認できる。
- (3) 大会終了後直ちに全道大会出場権を得た者に対して、全道大会の参加申込みを行う。
- (4) 新型コロナウイルス感染予防対策は（一財）北海道陸上競技協会の「競技会に開催における新型コロナウイルス感染症対策について」に準じて実施します。なお、主催者は当該競技に関わる全ての人の新型コロナウイルス感染に対するいかなる責任も負わない。